

〔北総文化研究センターから〕

## 北総文化研究センター主催「研究会」の経過報告(その20)

教授 前 川 邦 生

令和2年度の北総文化研究センターが関わった、新入生対象科目「人間文化入門前期科目」2020年7月15日(水曜日)テーマ「四街道市の歴史と文化財」について、四街道市郷土歴史館設立成会・副会長・飛田周彬氏講師に依頼した。スライドとレジュメを準備いただき、新入生に詳細にお話をいただき、学生たちが四街道市に通学する際の「四街道市の歴史等が参考に、刺激とヒント」を得たように思う。

本学、FD委員会、と共催のワークショップの開催。また、就職員会、FD委員会、北総文化研究センターと就職問題の共同研究会等も開催した。

本年度は、コロナ禍で研究会の回数が3回(92回・93回・94回)開催することができた。コロナ感染症が収束し、教員各位が十分時間が取れ「研究会の開催」回数増加が図れば幸いと存じます。

北総文化研究センターの運営担当者、前川邦生・中村塑・山崎寿美子で担当した。

2020年7月15日(水曜日)

## 四街道市の歴史と文化財

四街道市郷土歴史館設立期成会

副会長(講師) 飛 田 周 彬

### 1. 旧石器時代(12,000年前以前)

①市域で発見されている旧石器遺跡は19ヶ所ある。

《参考》

- ・物井地区(稲荷塚、小屋ノ内、御山、清水、新久、出口、出口・鐘塚…7か所)
- ・内黒田地区(西山No.3、池花…2ヶ所)
- ・大日地区(桜ヶ丘…1ヶ所)
- ・鹿渡地区(道作…1ヶ所)
- ・和良比地区(本山、堀込、台畑、水流、東原、御屋敷、中山…7ヶ所)
- ・吉岡地区(軽沢…1ヶ所)

②物井地区で人々の活動が見られるようになったのは約3万8千年前から1万年前までの「氷期」にあたる時期と言われている。旧石器時代の石器類は関東ローム層(古富士火山から降り注いだ火山灰で赤土とも呼ばれる)から発見された。

③立川ローム層の「X層」(最下層)から石器が発見された御山遺跡の「環状ブロック」(池花南遺跡、小屋ノ内遺跡IX層など)と呼ばれる石器群の分布確認で、県内最古遺跡となる可能性がある。

④3万年前以前の房総半島は、海(香取の海)の底または小さな島々の集まりであったと考えられ、人間が生活する条件を満たしていなかったことも明らかである。

### 2. 縄文時代(12,000年前～2,300年前)

①縄文時代の2大発明は、土器の使用と弓矢です。これにより、食生活の変化、定住性と平均寿命の延伸など社会の安定化が進んだ。

②四街道市には縄文遺跡が152カ所ある。

③鐘塚遺跡No.1(出口・鐘塚遺跡)からは、国内最古級といわれる欠損部に孔の痕跡がある石製垂飾(ペンダント?)に使われたと思われる石製品が発見された。

④木戸先遺跡で縄文前期(6～7,000年前)の土坑墓(穴掘って遺体を埋葬)が約200基と10軒余りの住居跡が発見された。

⑤千代田遺跡群(耳飾り表現のある土偶、顔面の表現された土版など)、八木原貝塚で縄文時代後期・晩期(3,500～2,500年前)の大規模なムラの跡と貝塚(通常は汽水域

で採れるシジミの筈が、東京湾岸のハマグリ、アサリなど発掘）が発見された。

### 3. 弥生時代（2,300年前～1,700年前）

①弥生時代は、中国大陸から稲作農耕を受け入れた時期で、鉄器・青銅器という金属器の使用も開始された。

②市域では、竪穴住居跡、墳墓、弥生土器等を出土する遺跡が多いが、水田遺構は発見されていない。

③食料資源の社会格差が発生し、争いが生じよう（戦争の時代）になった。

### 4. 古墳時代（1,700年前～1,350年前）

①定型的な前方後円墳の出現した時代を言う。

②市域では、物井、千代田、内黒田地区に物井古墳群が形成された。

③市域には、約200基以上の大規模な古墳群が発見されているが、「墳丘」が残っていないのが残念である。

④物井古墳群のうち、御山遺跡SX015と言う円墳の主体部（遺体の埋葬施設）から副葬品の「金銅装束頭太刀」が発見された。（大多喜町の千葉県文化財センター展示室保管）

### 5. 飛鳥・奈良・平安時代（1,350年前～900年前）

①都の置かれた地域（飛鳥、平城京、平安京）の名前を冠して時代区分を行っている。

②645年の「大化の改新」前後の一連の施策により、律令体制の全国的な浸透が認められる時期（国、郡、里＝郷）の行政区分が行われた頃）を言う。市域では、下総国千葉郡の物部郷、山梨郷に相当する。

③山梨郷の推定地から素焼きの食器に「山梨」という「墨書土器」（750年頃）が発掘され、千年以上もの間、地名が語り継がれている。

④平安時代中頃（10世紀）に編纂された「和名類聚抄」に下総国千葉郡にある7つの郷の中に「物部郷」「山梨郷」が記載されている。

### 6. 中世（鎌倉・室町・戦国時代）

①下総国は、桓武平氏の流れをくむ平良文を祖とする「千葉氏」が亥鼻城を居城（1126年）として、後北条氏が滅ぶ（1590年）まで約460余年間を統治した。

②市域は、千葉氏庶流の臼井城主原氏が交通の要所としていたため、戦乱に巻き込まれていたと考えられる。古河公方足利高基と小弓公方足利義明との対立に際し、北条方千葉氏と里見氏との対立があった。（主な城館跡として、福星寺館跡（吉岡）、鹿渡城跡（鹿渡）、古屋城跡（物井）等がある。）

③戦国時代の城砦館跡が約20ヶ所が確認されているが、城主は明らかではない。

④四街道は、後北条氏の滅亡に命運を共にした千葉氏の支配下にあったことから、中世

の古文書が殆ど残されていないのが実情である。

## 7. 江戸時代

①1590年に後北条氏が滅び、関八州を任された徳川家康が江戸入りすると四街道の村々に9人の旗本と甲州藩家臣が配置された。

- ・間宮氏（新左衛門、十左衛門1590年山梨、1625年鹿渡、中野、和田、成山、和良比）
- ・瀧川氏（1593年和田、成山）
- ・伊勢氏（1590年小名木）
- ・上杉氏（1601年栗山、亀崎）
- ・天方氏（1605年物井）～慶長10年（1605年）から元禄11年（1698年）1月まで約92年間物井村を支配した。初代通直は、青山播磨守忠成の五男、主馬助、家康に仕え、15歳の時に母方の天方城主天方山城守通興の娘と結婚、後養子となり天方姓となる。二代俱通は駿府城主守衛を任じ、由井正雪の余党を追捕。三代致通（ムネミチ）は27歳で死去。四代成展（ナリノブ）は弓術にすぐれ金1枚を賜り御弓頭となる。青山姓へ改める。
- ・堀内氏（1615年吉岡）
- ・榊原氏（1615年亀崎）
- ・服部氏（1625年南波佐間）
- ・鈴木氏（1629年三代将軍家光の子である甲州藩主徳川綱重の家臣、内黒田）

②寛文年間（1661～1672年、四代将軍家綱の頃）に実施された関東の幕府領総検地が終了し、江戸周辺に居住していた旗本の多くは、江戸拝領屋敷に住まわされることとなったので、旗本領は佐倉藩領に変わっていった。

③市域には「佐倉道」と呼ばれる佐倉藩の年貢米を千葉の寒川にある米蔵に運んだので、街道沿いには馬頭観音、道標、一里塚とエノキやケヤキが現在も残っている。

④当市の井岡家（江戸時代に長岡村名主）古文書の中に「小金原の鹿狩図」がある。尚、将軍の「御成の鹿狩」は、八代将軍吉宗時代2回、十一代将軍家斉と十二代将軍家慶の時に各1回と合わせて4回行われた。

⑤天保11年（1840年）、市域に初めて砲術練習場である「下志津火薬場」が設置された。このとき、「大土手山」は「大砲の標的」として築かれた。

## 7. 明治時代以降

①明治19年（1886年）に陸軍砲兵射的学校が開設、明治27年（1894年）市川～佐倉間に総武鉄道が開通し、軍郷の町として発展した。

②第二次大戦後、下志津原開拓団が結成され、茨城県内原から満蒙開拓青少年義勇軍内原訓練所の基幹学校生が開拓に協力した。

③昭和30年（1955年）旧千代田町と旭村が合併し四街道町が誕生。昭和56年（1956年）に市制が施行され、四街道市となる。

以 上

## 第92回 北総研究会

1. 開催日 2020年8月28日
2. 場 所 2号館会議室
3. 題 目 緑の大地計画と伝統的河川工法
4. 報告者 梶原 健嗣
5. 報告要旨

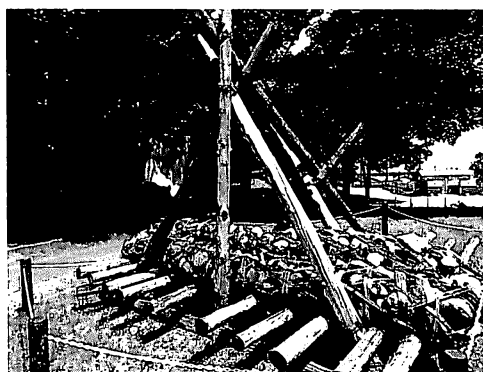
緑の大地計画とは、アフガニスタンで、故・中村哲医師が取り組んでいた灌漑計画である。年間降水量がわずか250～300mmというアフガニスタンにあって、ヒンドークシュ山脈の年間降水量は1,000mmを超え、その雪解け水は地域の人々の命を支える水源となっている。その雪解け水が、地球温暖化の影響で、季節的な乱れを生じた。その「乱れ」は、アフガニスタンに未曾有の大旱魃をもたらした。そしてまもなく、米軍による空爆が始まった。中村医師ら、PMS（ペシャワール会医療サービス）が、灌漑計画に取り組んだのは、そうした時期である。

マルワリード用水路は、「緑の大地計画」の象徴的存在である。投入した蛇籠や巨石を軽々と流し去る急流の威力をまざまざと見せつけられるなかで、中村氏が出会ったのが故郷筑後川の山田堰である。

山田堰（福岡県朝倉市山田）の特徴は、石張りの斜め堰という形状である。斜め堰によって水流の向きに変化が生じることで、単位幅あたりの流量が増える。簡単に言えば、河道内で、川幅が広がることの擬似的な作用が生ずる。そうして急流を和らげるのが斜め堰の効用で、これがアフガニスタンで使われた。

斜め堰のほかにも、クナール川の急流を制

御するために、緑の大地計画では様々な伝統的河川工法を用いた。例えば聖牛である。日本では、河川の水流を抑えるために、全国で様々な「牛類」が考案された。牛と称するのは、その形状が双角を備えるような形状を呈していることに由来する。聖牛もその1つで、丸太を三角錐や四角錐の形に組み上げ、足の部分に重石となる蛇籠を置き、川底へと固定するもので、洪水時の川の勢いを弱めるために設置される。



【写真1】 聖牛

2018.8.11 筆者撮影

流路の維持には、蛇籠や柳止工の技術が活用された。蛇籠とは、石を中詰めにした籠状の構造物の総称で、わが国において古くより護岸・水制に利用されてきた代表的な素材である。可塑性と透過性がある蛇籠は、クナール川の急流にも流されることはなかった。蛇籠が巨礫の間にはさまって留まることで、転石が起きにくくなった。それどころか、多量のカルシウム塩を含むアフガニスタンの水に晒されることによって、玉石が自然接着し、自然のコンクリートと化したという。

この蛇籠を更に強固にしたのが、柳止工で

ある。柳は、細い根が小さく網目状に分かれて石の隙間を埋める。柳の根は大小の隙間に侵入したのち根の先端は流水面に達し、決して根腐れを起こさない。根全体が「生きた網」を形成し、蛇籠をより強固にさせる。緑の大地計画では、2017年までに57万本が植樹され、植生工の61%を占めたという。

PMSの「緑の大地計画」を見て強く感じることは、歴史に学ぶということ、「温故知新」という言葉の本質は何かということである。時間や空間を超えて、通用する本質を見抜くために、いかなる眼が求められるのかという問いかけが、そこには潜んでいる。

## 第93回 北総研究会

1. 開催日 2020年11月20日
2. 場 所 2号館会議室
3. 題 目 中小企業における教育訓練  
ー千葉県的女性リーダー研修事例報告ー
4. 報告者 赤羽根 和恵
5. 報告要旨

本報告の目的は、2016年度から実施している女性を対象としたリーダー研修の効果と今後の課題を検討することである。

企業が行う従業員を対象とした人材育成・教育訓練を大別すると、①職場の上司や先輩が、部下や後輩に対し、仕事を通じて必要な知識・技術・技能・態度などを意図的・計画的・継続的に指導し、修得させ業務処理能力を育成するOJT (On-the-Job Training)、②職場を離れて行う教育訓練Off-JT (Off the Job Training)、③従業員の自己啓発 (Self-Development) に対しての支援がある。

企業の人材育成に関連する主な調査では、独立行政法人労働政策研究・研修機構（以下、JILPT）による「人材育成と能力開発の現状と課題に関する調査結果（企業調査）」（2017）がある。調査結果を見ると、「実施したOff-JTの効果に対する企業調査」では、ある程度以上の効果を認めた回答が（88.7%）であった。「受講したOFF-JTによって得られた技能・知識などは仕事に役立ったか（労働者調査）」の質問には、「役に立った」と考える労働者は、（86.5%）に上る。企業の人材育成の実施状況のうち「Off-JTを誰

に実施したか」には、正社員に実施（75.4%）、正社員以外に実施（38.6%）している。現在の雇用状況では、正社員は男性が多く、正社員以外は女性が多いため、男性が女性より教育訓練を多く受けているのがわかる。

次に、千葉県総合企画部男女共同参画課（2015）「県内中小企業における女性の活躍実態調査報告書」では、「女性正社員の育成にあたり重視している教育訓練」は、OJTが（61.5%）である。それに対し、Off-JTは（1.7%）と少なく、女性は社内で引継ぎなども含めOJTで仕事を覚え、研修等の訓練を受ける機会がないのがわかる。中には、「女性社員はいない」（11.3%）という回答もみられた。

本研究では、千葉県職業能力開発協会（以下、Chivada）の女性リーダー研修の受講生を対象としており、企業が行うOff-JTに該当する。研修終了後の受講者アンケートの自由記述から見える課題と意識の変容を報告した。

同協会は、職業能力開発促進法に基づき設置された公共的団体（法人）で、全国都道府県ごとに設置されている。主な事業内容は、①能力評価試験、②技能振興の取り組み、③人材育成サポートで、企業・各種団体向けに年間25回の各種セミナーを開催している。このうち、階層別研修に着目をしているが、同協会では階層別研修の各階層の受講は入社年数を目安として示している。

2020年度の各都道府県職業能力開発協会の階層別研修実施状況を調べたが、都市部での開催が多く、その場合でも県によって一部の階層のみ実施するなど研修種別が異なり、開催のない県もある。リーダー研修では12

都道府県で実施しているが、そのうち女性リーダー研修は千葉、神奈川、群馬の3県のみであった。女性を対象とした研修の需要がないと思われる従来のリーダー研修では、「受講者はほぼ男性であり、ごくたまに女性が1名いる」程度である。

女性リーダー研修の目的は、①女性の教育訓練の拡大、②ロールモデルの設定、③女性ならではの問題の共有である。研修を機に、生涯を通じたキャリア形成を考え、職場の問題解決や活性化に繋がる効果を期待している。

2016年度の受講者が8名と少なく2年目に研修名を「女性のためのリーダーシップ術」に変更し誰でも受講しやすくなるように、対象を広げた。その結果、2017年度18名、2018年度13名、2019年度18名と受講者が増加しのべ57名が受講している。

受講者の年齢階層別では、30代4代の中堅社員が多い。雇用形態は、一般職、専門職、コース、総合職、業種、職種と多岐にわたる。

1年目の受講者への聞き取りで見られる傾向は、転職率が低く同一企業で長期的に就業、事業所内で担う業務や果たす役割を担っている。これまで受けた教育訓練でOJTは、入職時に先輩女子社員から（含む引継ぎ）、Off-JTは初めての受講と教育訓練の機会が極めて少ない。

2年目以降、女性の多い業種（医療・福祉サービス）が増え、同一事業所から複数名受講、継続的に人を送り出す企業もある。中途採用者と研修受講経験者が増えている。

受講アンケートの自由記述のうち、「参考になった内容（複数回答）」と、「今後、仕事にどう生かすか（複数回答）」の関連についてKJ法を用いて分析をした。「参考になっ

た内容（複数回答）」では、いずれの年度も「他者理解」が多く、「リーダーの機能」、「伝え方」が続く。「今後、仕事にどう生かすか（複数回答）」には、「他者への働きかけ」が最も多い。次いで「自己理解」、「業務遂行能力」が多くなっている。研修受講の効果として、「他者理解」、「伝え方」が参考になり、今後、「他者への働きかけ」を行う。「リーダーの機能」を知り、「業務遂行能力」に生かすと思われる。

「参考になった内容（複数回答）」について、カテゴリー関連図を作成した。「仕事領域」、「対人領域」、「自己理解」、「新たな知見」と分けられる。研修を通じて、職場の人間関係などの問題と、キャリア形成を考え、それぞれが気付きを得て、意識と行動の変容を試みようとしている。

Off-JTの経験は、職場での効果だけでなく、価値観の変化や視野の拡大など今後のキャリア形成にも影響を及ぼす。社内にはいないロールモデルを見つけるチャンスや、女性のネットワーク作りにもなる。企業の人材不足を補うには、キャリアパスの一環として女性の教育訓練を重視し、仕事での成長の機会を与え、意欲を促すことが重要である。人材育成の対象となると、女性も継続的な就業を選択し、良い人材の確保に繋がるであろう。

報告に際し、諸先生方からの貴重なご質問とご意見を頂き、感謝申し上げます。

## 第94回 北総研究会

1. 開催日 2021年2月19日
2. 場 所 2号館会議室
3. 題 目 自己を導く価値観  
ー起業実践から社会起業家研究へー
4. 報告者 速水 智子
5. 報告要旨

### 1. 小さく始める起業の実践

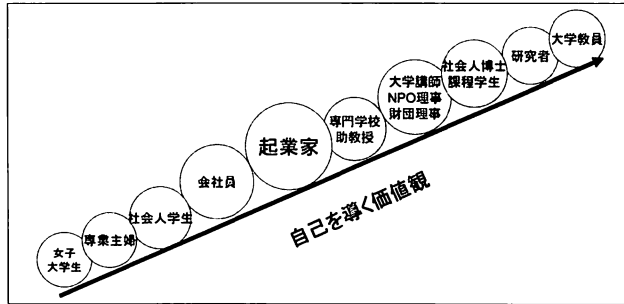
近年、世界中で多様な働き方が散見される。その一つとして、従来の起業家とは、異なる価値を持つと考えられる“社会起業家活動”に注目が寄せられている。

筆者は現在、社会起業家及び社会的企業をテーマに大学教員として研究活動をおこなっている。本報告では、自らの起業活動も振り返りつつ「自己を導く価値観」について、さらに社会起業家研究の概要についての報告をおこなう。

さて、筆者は1993年にPC関連事業を中心とした有限会社を起業した。当時はインターネットが民間利用される草創期であり、自社ウェブを持っている企業も数少ない時代であった。そのような中、女性が自宅でインターネット関連のビジネスを進めるスタイルは注目を集めた。しかし、市場が一般的には顕在化されていなかったため事業化の道のりは容易ではなかった。事業における“経済的成長”という規模の拡大を目指すことから、価値観の変化が始まった。



<図表1 キャリアの変遷>



図表1は、その過程を自らのキャリアの変遷として、図に示したものである。各段階の解説は省略するが、働くことを通して、自分の中に新たな価値観が芽生えていった。この経験を何か形にしてみたい。それが社会人学生として博士課程へと進みきっかけとなった。

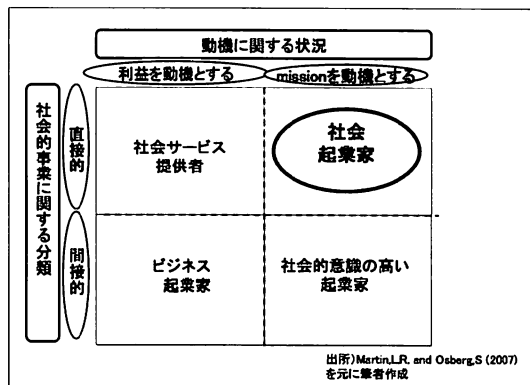
## 2. 社会的企業と社会起業家

社会起業家研究への一步は『社会的企業』という一冊の本から始まった。それはEU加盟国15カ国からなる研究チームEMES (L'Emergence des Entreprises Sociales en Europe) が1996年から4年間費やした研究報告である。社会的企業 (Social Enterprise) とは社会的使命を目標として民主的な組織運営が行われ、ビジネスの手腕を発揮し続ける

組織とされる。おもにEUにおける3つ目とされる活動部門（サードセクター）で見られる現象とされた。社会的企業の組織におけるプレイヤーが社会起業家とされる。

次に図表2は社会起業家の動機について整理したものである。社会起業家の事業は、社会の課題を解決するためにおこなわれる。社会起業家の事例からは個人的なミッションを得て事業をスタートしたケースが少なからずある。それは個人の目標と社会の幸福が整合性を持って関係づけられているとも考えられる。一方、古いしくみに対しての挑戦や新しいサービスを創出する革新性は、起業家精神の発露とも見られる。

<図表2 社会起業家の動機>



### 3. 大学における社会起業家教育

図表2からは、社会起業家活動においては、動機は重要な要素と考えられる。学生時代にミッションを得て、社会起業家活動に向かった人々もいる。米国のNPOTeach for Americaのウェンディ・コップ、かものはしプロジェクトの村田早耶香、NPO法人フローレンスの駒崎弘樹などは知られている。

ちなみに、図表3は、大学におけるこれまで見られた社会起業家教育についてとりあげたものである。欧米の教育では、ケーススタディカリキュラムが用いられている点とインターンシップやキャリア開発など3つの要素がセットになっていることが特徴としてあげられる。

＜図表3 大学におけるこれまで見られた社会起業家教育について＞

イェール大学 (1978年)	非営利組織講座：Program on Non profit Organizations：PONPO
ハーバード ビジネススクール (1993年)	Social enterprise Initiative：SEI
スタンフォード大学	Center for Social Innovation：CSI
デューク大学	Center for Social Entrepreneur：CASE
コロンビア大学	Research Initiative on Social Entrepreneurship：RISE
オックスフォード大学 ビジネススクール	Skoll Center for Social Entrepreneurship
関西学院大学 (2008年)	人間福祉学部社会起業学科（名称は日本で初めて）
慶應義塾大学 (2004年)	コミュニティ型教育プログラムと地域活性化（現代GP）、 大学院政策・メディア研究科：社会イノベーターコース（修士）
同志社大学 (2006年)	総合政策学科（大学院）：ソーシャル・イノベーション研究コース

最後に、一つの働きかたとして、僭越ながら筆者の事例にもふれながら、社会的企業、社会起業家の概要も報告させて頂いた。

個人の働き方はますます多様化していく中、自己を導く価値観に支えられた純粋な働き方も可能ではないかと考えている。

本当に自分らしい生き方とは何だろうかと思う時、社会起業家たちの事例は、一つの意味を与えてくれるような気がしてくる。

#### ＜参考文献＞

- Borzaga, C. and Defourny, ed (2001), *The Emergence of Social Routledge*. (内山哲郎・石塚秀雄・柳沢敏勝共訳『社会的企業』日本経済評論社, 2004).
- 速水智子 (2008a) 「社会起業家活動の定義に関する分析視角の提示」, 『中京経営紀要』, 8号
- Martin, L. R. and Osberg, S (2007) Social Entrepreneurship：The case for Definition, *Stanford Social Innovation Review*, Spring, pp28-39.